



公益社団法人 日本看護協会
看護研修学校

Institute for Graduate Nurses, Japanese Nursing Association



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

校長挨拶

公益社団法人日本看護協会看護研修学校（以下本校）には、認定看護師教育課程、教育研究部、総務管理部、図書館があり、看護職が生涯にわたり高い専門性をもち、幅広い分野で活躍できるよう様々な研修を提供しています。

歴史は古く1972年、まだ看護教員が不足する時代に教員の育成を開始し、その後、看護管理者の育成が重要となり看護管理者の教育にも寄与しました。さらに、看護師、助産師の実践能力の向上に資する研修や社会のニーズに対応した研修を開発し、オンデマンド形式を中心に提供しています。1983年、専修学校に認可され、看護研究、教育専攻、管理専攻学科を開講しその領域のリーダーを輩出してきました。1996年、日本で初めての認定看護師教育課程2分野を開講しました。卒業生たちはそれぞれの看護の専門分野をけん引しています。2015年には特定行為研修試行事業11行為に取り組み、2020年には特定行為研修を組み込んだ認定看護師教育課程5学科を開講しました。また、本コースは本会が制作したeラーニング教材を活用し、双方向性のある遠隔授業の導入により、医療機関等で勤務を継続しながら学習できる環境が整っています。

人生100年時代に向けて、私たちの活動の場は人々が生活する地域社会へと広がっています。保健・医療・福祉のあらゆる場で看護職に求められる役割は拡大し、活躍が期待されます。そのため、本校は高度な専門教育や看護職の生涯学習を支援する教育機関として、看護の質向上に貢献してまいります。

吉村 浩美



フローレンス・ナイチンゲール・ローズ



国際看護師協会 (ICN) の姉妹団体であるフローレンス・ナイチンゲール国際基金 (FNIF) の発足75周年を記念して誕生したバラです。日本においては、皇居東御苑と本校に植栽されています。

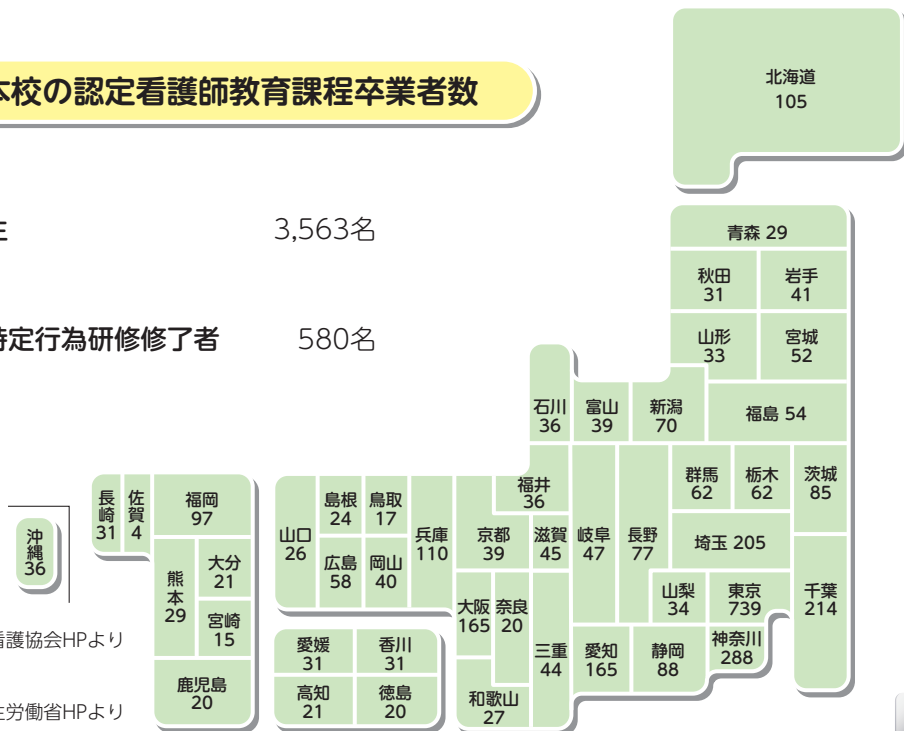




データで見る
本校の人材育成

本校の認定看護師教育課程卒業生数

- 認定看護師 本校の卒業生 (1996 ~ 2020年度) 3,563名
- 認定看護師を対象とした特定行為研修修了者 (2015 ~ 2019年度) 580名



[参考] 全国の認定看護師総数 21,595名 (2021年5月現在) ※日本看護協会HPより
 全国の特定行為研修修了者総数 2,887名 (2020年10月現在) ※厚生労働省HPより

認定看護師教育

特定行為研修を組み込んだ認定看護師教育課程（B課程）

- ✓ 第一線で活躍する講師陣による質の高い教育
- ✓ インストラクショナルデザインに基づき本会が制作したeラーニング
- ✓ 教員の手厚いサポート
- ✓ 分野の枠を超えた5学科での合同授業
- ✓ 充実した学習環境
- ✓ 卒業生へのフォローアップ



- 履修スケジュール〔1年〕：4月入学、3月卒業（集合教育は臨地実習を含め4か月半程度）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式	eラーニング (所属施設にしながら学習) *登校日が3回程度			講義・演習・実習・ 科目試験 (集合教育)		臨地実習 認定・特定		統合演習		修了試験	卒業式

[クリティカルケア学科] 定員 30名

救急初療から重症患者の全身管理まで、病態判断し必要なケアに結び付けられるように講義、演習を通して学習します。また、チーム医療における認定看護師の活動を考えながら演習、実習を行います。さらに、クリティカルケア領域では欠かすことのできない呼吸管理や循環管理について高度な知識・技術を習得できます。

[糖尿病看護学科] 定員 30名

糖尿病患者の病期に応じたQOLの維持、向上の支援ができるように、講義、演習を通して最新の糖尿病の治療法、予防的フットケア技術、糖尿病透析予防指導管理を学習します。さらに、血糖パターンマネジメントを基盤としインスリン投与量の調整ができる知識や技術を習得できます。

[皮膚・排泄ケア学科] 定員 30名

褥瘡や下肢創傷などの創傷管理及びストーマケアや排泄障害を伴う患者の排泄管理を学びます。スキンケアから排泄ケア、創傷管理に必要なデバイスの知識を備えた実践力の強化を目指します。さらに、デブリードマンや陰圧閉鎖療法など高度創傷管理技術を習得できます。

[認知症看護学科] 定員 30名

認知症の発症からエンドオブライフまで、あらゆる場においてその人らしい生活の継続を支援できるように、BPSDやせん妄の予防と緩和を含む症状マネジメント技術を学びます。さらに、認知症医療に必要な抗けいれん剤・抗精神病薬・抗不安薬の臨時投与の知識と技術を習得できます。

[感染管理学科] 定員 30名

病院、高齢者施設、在宅等のあらゆる場において、医療関連感染予防・管理を実践するための知識・技術を学びます。また、所属施設の感染管理プログラムを立案し、組織横断的な活動によって効果的な感染管理を実践できるよう学習していきます。さらに、感染症予防から抗菌薬の適正使用まで、高度な知識を習得できます。



自分を変える

特定行為研修

特定行為研修で医学的知識・技術を強化し、看護を基盤に、特定行為を含めた質の高い医療・看護を効果的に提供することで、あらゆる場であらゆる対象のニーズに応える力を身につけます。

- ✓ 働きながら学べるeラーニングを中心とした研修プログラム
- ✓ 第一線で活躍する講師陣による質の高い教育
- ✓ 実践的な演習プログラム
- ✓ 充実した学習環境
- ✓ 本会の修了生が在宅領域で多数活躍
- ✓ 全国で最も多くの修了生を輩出



- 履修スケジュール〔1年〕：7月開講、6月修了（集合研修期間は選択する区分により異なる）

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
開講式	eラーニング (所属施設にしながら学習) *登校日が3回程度					講義・演習・実習・ 科目試験 (集合教育)	臨地実習 (所属施設での実習を推奨)				修了式

〔認定看護師を対象とした特定行為研修〕

対象 本会の認定看護師制度における認定看護師の資格を持つ者を対象とした特定行為研修

■ 受講できる特定行為区分

【必修】	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	定員 185名
【選択】	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	定員 30名
	循環動態に係る薬剤投与関連	定員 30名
	創傷管理関連	定員 30名
	感染に係る薬剤投与関連	定員 30名
	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	定員 30名
	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	定員 30名
	領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」	定員 5名



〔在宅領域の看護師を対象とした特定行為研修〕

対象 概ね臨床経験5年以上の看護師で在宅や介護施設等の領域における活動実績がある者、または、今後、在宅や介護施設等の領域において活動を予定する者

領域別在宅パッケージ研修「在宅・慢性期領域」 定員 15名



継続教育

看護の質保証を目的とした看護職のキャリアに応じた継続教育を実施しています。

毎年策定する教育計画に基づき、看護実践力の向上に役立つインターネット配信研修【オンデマンド】を配信し、2020年度は約2万人、3,400施設の方に視聴いただいています。



■具体的な事業内容

教育計画の策定

毎年、有識者からなる教育委員会や本会会議等において、医療・看護を取り巻く状況等を踏まえ、教育計画基本方針・重点事項を検討・制定し、5つの研修分類に基づき教育計画を策定しています。

インターネット配信研修【オンデマンド】の企画・作成・運営

2021年度は、教育計画に基づく研修のうち43研修をオンデマンド配信しています。

オンデマンドは、個人での受講の他、施設内での研修のコンテンツとして受講されており、ライフスタイルに合わせ、繰り返し視聴できることが特徴です。

研修は、保健師・助産師・看護師・准看護師を対象とした内容、助産実践能力習熟段階（CLoCMiP）や「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」、看護管理者や教育担当者を対象とした内容や医療安全管理者養成研修などあります。これらの研修は、県協会主催研修において、演習等と組み合わせた活用もされています。

「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」（JNAラダー）活用の推進

2016年に公表されたJNAラダーについて、各施設等で活用が推進されるよう、活動を進めています。教育計画に基づく研修としても、14研修を配信しています。

■継続教育事業の歴史

本会創設当時から教育事業が開始され、現在まで75年間、様々な社会変化を見据えながら看護の質向上を目指し、継続教育を続けてきました。

- 1946年 本会創設 教育事業の開始
- 1966年 助産婦部会、看護婦部会、保健婦部会の総合教育プログラム案
- 1967年 教育部を設置
- 1987年 研修領域を看護管理、看護教育、看護実践の3つに区分
- 1993年 認定看護管理者制度の教育開始。セカンドレベル研修開始
- 1998年 認定看護管理者制度サードレベル開始
- 2000年 継続教育の基準 公表
- 2011年 インターネット リアルタイム配信開始
- 2012年 継続教育の基準Ver.2 公表
インターネット配信研修【オンデマンド】配信開始

日本看護学会

日本看護学会は、実践にねざした看護研究の推進のため、学術集会の開催と論文集を発行しています。日本看護学会で発表される研究は、実践や臨床研究に役立つものが多く、日本看護協会会員に広く研究発表と研鑽の場を提供しています。

■日本看護学会学術集会

これまで領域別に7か所で開催していた学術集会は、2021年より領域を一元化し、様々な場所で働く看護職が一堂に会する新たな学術集会を開催します。抄録集は、会員専用ページ「**キャリアース**」にて公開します。

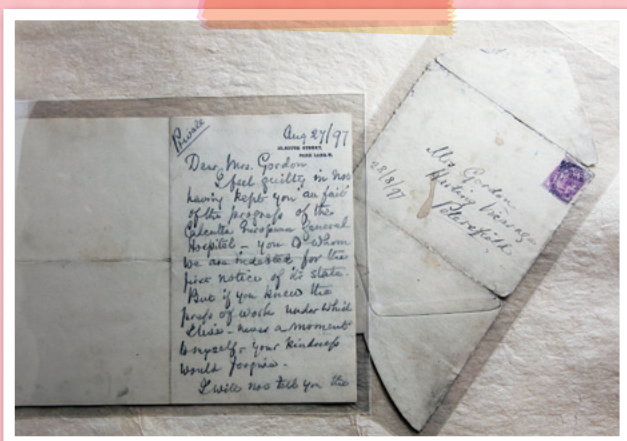
■日本看護学会論文集

2022年より投稿資格を拡大し、日本看護学会学術集会での発表者に限らず、日本看護協会会員であればどなたでも投稿可能になります。また、2022年からの論文集はオンラインジャーナルとして発行します。



図書館

看護や関連分野の専門書約55,000冊、雑誌約750誌の閲覧、貸出や複写サービスをご利用いただけます。「最新看護索引Web」をはじめとする看護・医学を中心とした文献データベースや電子ジャーナルも利用可能です。検索に不慣れな方でも司書が質問等に対応し、学習をサポートいたします。またナイチンゲールの自筆書簡等貴重資料を特別資料室で所蔵し公開しています。



ナイチンゲールの自筆書簡

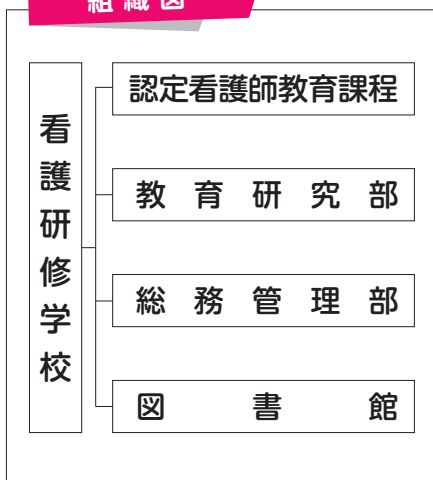




生きるを、ともに、つくる。

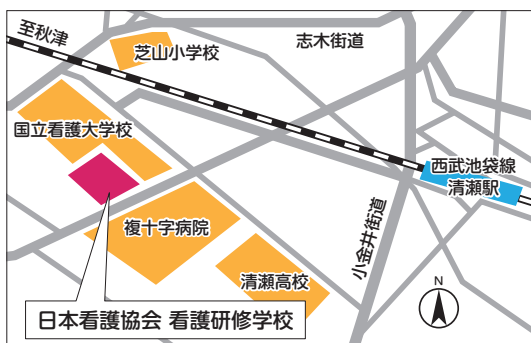
公益社団法人 日本看護協会

組織図



沿革

- 1972年 ● 看護研修学校創立（原宿）
- 1974年 ● 学校教育法に基づく各種学校に認可
- 1983年 ● 専修学校に認可
- 1987年 ● 清瀬市に看護研修学校移転
- 1994年 ● 認定看護管理者制度 セカンドレベル研修開始
- 1996年 ● 認定看護師教育課程教育機関として認定看護師教育開始
- 1998年 ● 認定看護管理者制度 サードレベル研修開始
- 2000年 ● 認定看護師教育を1年の専修学校として再編成
- 2015年 ● 厚生労働省より特定行為研修指定教育機関として指定
- 2016年 ● 認定看護師を対象とした特定行為研修開講
- 2020年 ● 特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師教育B課程開講
 - 在宅領域の看護師を対象とした特定行為研修開講



〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-2-3

公益社団法人日本看護協会 看護研修学校

TEL : 042-492-7211(代) FAX : 042-492-7213

日本看護協会公式ホームページ > 生涯学習支援 > 看護研修学校

<https://www.nurse.or.jp/nursing/education/kiyose.html>

